

★ 岡崎市立図書館で活動されているボランティア ★

- 岡崎子ども本研究会：絵本、児童書の研究  
例会 毎月第3火曜日 10:00 - 図書館3階会議室  
11/19(火) 学校で読み聞かせてよかった本  
12/17(火) 大人から子どもの本へクリスマス本
- 絵本の広場：読み聞かせに向く絵本の情報交換、絵本の読み方の勉強会  
例会 毎月第1火曜日 10:00 - 11:00 図書館3階会議室 (1, 4, 8月以外)  
12/3(火) 2学期に読み聞かせてよかった本 例会後 児童室で読み聞かせ 11:00 - 11:30
- たからじま：児童書を読んで楽しむ会  
例会 毎月第四金曜日 10:30 - 12:00 図書館3階会議室  
11/22(金) カニグズバーグの作品から「13歳の沈黙」「ジョコンダ夫人の肖像」  
12/13(金) 深い感動がほしい時「すべてきみに宛てた手紙」「読書からはじまる」 長田弘著
- おはなしの森「コロボックル」：岡崎南部市民センター「シビックセンター」  
毎週火曜日 午後4:00 - 4:30 シビックセンター図書室
- 読み聞かせボランティアグループ：岡崎市立図書館で読み聞かせ  
月2回土曜日 14:30 - 15:00 図書館児童室  
11/23(土) 12/14(土)
- 木曜会：盲人のために点訳奉仕  
例会 毎週木曜日 図書館3階会議室

★ 岡崎図書館を考える会  
12月定例会のおしらせ  
12月14日(土) 午前9:30  
岡崎市立図書館3F 会議室

RELAY TALK

鈴木 忍

11月5日の読売新聞は、大見出しで「ストップ高齢者の本離れ」「図書館が“出前”」として、大阪市立図書館が養成した「読書支援ボランティア」の活動を紹介していました。

団体貸し出しによる200冊近くの本を携えて施設などを訪問し、本を選ぶ手伝いや貸し出しの手続き、紙芝居や朗読のサービスをしているのだそうです。また、東京墨田区立緑図書館では、図書館まで20分以上かかる地域に対して、老人会の集会などへの図書貸し出しに出向くとあります。

この夏、私は地域のふれあいの場として「かのり文庫」を開きました。毎週火曜日(午後2時から8時)、神社の社務所を利用した出

前図書館です。岡崎市立図書館から100冊の本や紙芝居、ビデオを借り受け、地域の子供や大人たちに図書館の出前をしたいと考えたのです。希望する本が見つからないときにはリクエストに応じて次週に準備するサービスをしました。毎回平均25名の異年齢の参加者(小学生が中心)があり、本を読むだけでなく、将棋やゲームをしてゆっくり楽しんで過ごす空間となりました。子どもたちは自主的に手づくりで文庫の宣伝チラシを作ってくれたりしました。

この文庫活動を個人の活動に終わらせないで、協力者と共に組織的、日常的な活動に育て上げたいと思っていた矢先のこの新聞記事に、元気が出てきました。

TOPIC

新図書館建設特別委員会が解散へ。----- (一体この委員会は何をしたのだろうか)  
商工会議所が新図書館建設候補地(康生西)に移転の構想、市と協議へ。移転理由は現施設の耐震問題と手狭な駐車場、市街地活性化への取り組みとか。----- (結局こういうことになるのか、)

岡崎図書館を考える会のホームページは12月1日をもって下記アドレスに移転します  
<http://home1.catvmics.ne.jp/pp-katoh/>

岡崎図書館を  
考える会 10/11 No4

より良い図書館を目指して  
より身近な図書館を目指して

発行：事務局  
(0564-25-1595) 加藤

<http://www.sun-inet.or.jp/~pp-katoh/>



岡崎図書館を考える会  
「城下町フェスタに出店」

10/19 ~ 10/20の2日間岡崎市康生通りを主な会場として「城下町フェスタ」(主催：岡崎商工会議所)が開催されました。

岡崎図書館を考える会はこの催しに出店参加しました。城下町フェスタに来る人々に、図書館に関わる人達の活動を知って頂くこと、そして新たな図書館建設の動きなどを紹介してきました。

「手作り工作」では子供達に「びゅんびゅんごま」や「かざぐるま」の工作実習。一生懸命に色を塗り、糸を通してびゅんびゅんごまを作る子供の顔は真剣で、ひたむきです。子供と会員の会話も弾みます。作ったびゅんびゅんごまを上手に回せる子、なかなか上手にまわせないお母さん、子供以上に夢中になっているお父さんなどいます。

このような「工作実習」は最近の図書館でも「工作室」として提供されているところもあります。本のみならず、子ども達の探求心を養う担い手として、図書館のありようを示唆しているようです。

「パネルシアター」「エプロンシアター」など子供達を対象にした「読み聞かせ」は竜

美丘小学校読書クラブの方々のご協力で行われました。いろいろにしかけを工夫した本など子供の興味をひきます。城下町フェスタに足を運ぶ子供連れの家族などがテントの前で集合しました。また、キーボードで演奏していろいろな歌を披露してくださいました。図書館に関わりはなくても、読書と子供に関わる人々は多いはずで、このような方々の力で子供からの読書意欲は養われていくことでしょう。

「パネル展示」はこれまでの岡崎図書館を考える会の行事紹介、新たにオープンした「田原町立図書館」の紹介などを展示しました。

「古本販売」は会員からの寄付にて行われました。戦前の古い本から最近の本など多種多様な本を展示して販売することができました。特に年輩の方々が興味を示していただき、このコーナーは「古本屋」のフリーマーケットのようでした。

初日の売り上げは5900円、2日目の売り上げ2800円。支援カンパを含め総計8700円の売り上げとなり、会費として計上しました。

みなさんご協力ありがとうございました。



**田**原町の人口は約3万人で、岡崎の1/10です。その田原町の中心地に文化会館と体育館に併設されて新しく3,972㎡の図書館が建っていました。岡崎が新しく建てようとしている図書館は1万㎡ですから、規模は岡崎の2/5で、それほど大きくないですが、大変モダンな長期滞在型の建物でした。10時の開館を待ち、同じ日に見学を申し込まれていた豊橋の「学校を考える会」の方々と共に、館長自ら会議室へと案内をしていただきました。

**館**長のお話は、職員が司書であることの必要性・重要性、そして自らがどんな図書館にしたいかというビジョンとポリシーを持っているかということを強調されました。たしかに館長の努力で全職員が司書の資格を持ち、開館後にかかる経費のための予算を確保するなど、こんな館長なら住民も心強いだろうと伺わせるお話でした。

しかし、住民の勉強会から発展し、共に新図書館に関わってきた「図書館フレンズ田原」との現在の連帯については言及がなく、意外な感じがしました。

質疑応答の後、館内を案内していただきました。中庭のこじんまりしたテラスには椅子とテーブルがあり、館内にはゆったり座れるソファがあり、食事もできるようになっていました。図書館という空間が好きな人にはたまらなく魅力的

だと思いました。ただ、ここまで来れる人はどのくらいいるのだろうかとも思いました。

**新**しい図書館なので、まだ蔵書が充実しているとは思えませんでした。雑誌は450タイトルもあるということでした。マンガもあると聞いて期待していましたが、マンガもヤングアダルトもこれだけ？という感じでした。遠方の学校には自動車文庫が回っていき、生徒たちに好評ということでした。

新しい建てものは、目を引き人を呼びます。この日も見学者が目立っていました。新しくて、使い勝手がよく、居心地がいい図書館です。時間がなく、館長に「図書館として雑誌や小説を読んで長く留まるだけの利用目的でよいのか、蔵書の目的は何なのか、郷土の研究資料としての蔵書とスペースがあるにしても、他の研究素材としての蔵書はどのくらい住民の要望に答えられるのか、他の図書館とのネットワークは？」など、聞き漏らしたことが多々あったような気がします。

**岡**崎もこんな図書館がいいねと「街のモニュメント」としての図書館を建てるのは、案外簡単かもしれません。その機能にどのような意味を持たせるのか、もう少し深い論議をすべきだと思うのですが、「岡崎中心地の活性化のために康生地区に図書館を中心とした複合施設を」という前提では、市民センターの図書室の充実やより強力なネットワーク化は論外という感じになってきます。

市民がどんな図書館を望んでいるのか、市民がどんな情報を得たいと思っているのかということを考えることが、これからの、未来の情報を生み出す、あるいは市民の間に眠っている情報資源を掘り起こす図書館の役目だと思うのですが。

「岡崎図書館を考える会」に入れて頂き、図書館に対する感心が深まる中、今回、田原町立図書館見学の後、豊橋市立鷹丘小学校の図書館を訪ねました。

案内された図書室に入ると、きれいに整理された本、壁に飾られた色とりどりの折り紙やチェーンの飾り、黒板に描かれたイラスト入りのメッセージが目に入り、子供たちが楽しく本を選ぶ明るい雰囲気が作られていると感じました。

**私**の小学校時代は戦後間もない頃でしたので、あまり設備が整っていなかったのか、学校の図書館がどんな風だったか記憶に残っておりません。しかし、四年生の担任でアナウンサー志望の女の先生が、週に一時間「世界名作全集」の中から選んで、朗読をしてくださったのです。聞きながら、文中の情景を頭に描いてはわくわくし、次週が待ち遠しくてたまらなかったことを、今でも鮮明に思い出します。

その頃は子供向けの本が手軽に手に入る時代ではありませんでしたが、本の面白さを知って自分で読みたくてたまらなくなり、父に「誕生日に何がほしいの？」などと聞かれると、いつも「本がいい」と答えるほど、本に夢中になりました。そして読んだり聞いたりする中で、空想する楽しみ、未知のことがわかる喜びを感じました。ちょっぴり大人になったようにも思えて嬉しくなりました。情報がいろいろな形で得られることで、五感が豊かに働くように思えます。

**司**書の福島さんから、「2000年度からモデル校として始められた学校図書館の司書設置」（現在は市内で、小、中学校各一校がモデル校）についての経緯、司書の仕事内容、

現在までのご苦労とその成果、などを伺いました。

**今**春から総合学習が導入され「調べ学習」が増えることにより、学校図書館が情報発信センターの役割を担うことになり、司書の存在は一層大きくなったそうです。修学旅行を控えたときは、行き先の歴史書探しに公立図書館まで出向くこともあり、年間の勤務時間が限られている今の状態では時間が足りないほどのことでした。また、司書の仕事では、子供たちの興味の対象をしっかり把握し、人気のない本を廃棄し、新しい本を購入する「本選び」がとても大変と仰っていました。

「鉄は熱いうちに打て」の通り、柔らかな感性を持つ子供たちに、それぞれの興味あるものを引き出す手助けができる司書の役割を考えると、一日も早くすべての学校に司書設置がなされるよう願わずにはられません。

お話を伺っている間も生徒たちが嬉しそうに出入りし、時々福島さんに尋ねては本を探す様子が印象的でした。福島さんが来られてから、本の貸し出しが50%アップしたそうです。今まであまり深く考えずに図書館通いをしておりましたが、また新しいことを知る機会を得て、「知ることは楽しい」を実感した一日でした。

